

情報通信審議会 情報通信技術分科会
公共無線システム委員会 技術的条件作業班
既存放送業務との検討アドホックグループ（第1回）議事要旨

1 日時

平成21年10月27日（火） 16時00分～17時20分

2 場所

総務省10階 1002会議室

3 出席者（敬称略、五十音順）

（1）構成員

大堂 雅之（（独）情報通信研究機構）、小野 光洋（富士通株式会社）、片柳 幸夫（日本テレビ放送網）、加藤 数衛（株式会社日立国際電気）、川島 修（エフエム東京）、川島 徳之（フジテレビジョン）、志賀 康男（警察庁）、清水 隆司（社団法人電波産業会）、菅並 秀樹（日本放送協会）、高田 仁（日本民間放送連盟）、竹内 嘉彦（日本無線株式会社）、成澤 昭彦（パナソニック株式会社システムソリューションズ社）（代理：川瀬 克行）、深澤 知巳（TBSテレビ）（代理：柴田 豊）、三浦 洋（ニッポン放送）（代理：中村 潤）、村上 信高（TBSラジオ&コミュニケーションズ）、柳内 洋一（日本電気株式会社）、山崎 高日子（三菱電機株式会社）、吉野 洋雄（テレビ朝日）、吉本 博（テレビ東京）、渡辺 信一（文化放送）、渡辺 知尚（総務省消防庁）

（2）事務局

新田 隆夫（重要無線室長）、根本 朋生（重要無線室課長補佐）、上野 喬大（基幹通信課国際係長）

4 議事

（1）アドホックグループの設置について

資料2028-AHG-1-1等に基づき、公共ブロードバンド移動通信システムの導入に向けた検討に際して、隣接する周波数帯を使用する既存の放送事業関係の無線局について詳細に検討をする必要があるとのことで、当初の情報通信審議会答申の予定を変更し、当グループを設置することとしたこと等、設置についての説明が行われた。

質疑については特になし。

（2）これまでの検討状況について

資料2028-AHG-1-4及び資料2028-AHG-1-5に基づき、竹内構成員から説明が行われた。主な質疑については以下のとおり。

- 吉野構成員 もう一方の隣接周波数帯を使用する予定のマルチメディア放送システムとの検討は既に完了しているが、なぜ既存業務の無線局よりも早くそちらの検討が優先されたのか。経緯を説明してほしい。
- 事務局 アナログTV放送の跡地周波数帯については、以前の審議会において、アナログTV放送（4CH）の漏えい電力よりも弱い漏えい電力となるシステムについては、問題ないとされていたところであり、技術的条件作業班での検討においても、その結論を踏襲していたものである。
- 近日になって、アナログTV放送と検討システムとは利用形態が異なることから、既存放送事業用の無線局に対しても干渉のおそれがあるのではないかという懸念が生じ、このようなアドホックグループを設置することとしたものである。
- 高田構成員 資料 2028-AHG-1-4 は、公共ブロードバンド側の想定にもとづく検討結果と理解している。いわば事前検討結果をご説明いただいたもので、アドホックにおいては、これから放送側で運用想定やパラメータを精査させていただき、具体的な検討に入る段階だと認識している。資料タイトルや表現ぶりについても、放送側として賛成しかねる部分がある。
- 片柳構成員 資料 2028-AHG-1-4 には「これまでの検討状況」とタイトルが付いているが、技術的条件作業班の検討という位置づけを明記してほしい。
- 大堂GL 資料のタイトルについては、それと分かるようにしたい。
- 村上構成員 資料 2028-AHG-1-5 でのワイドバンドは固定業務の局とされているが、ラジオ局では移動業務（100KF3E、出力 1W 程度）の無線局を使用している。
- 竹内構成員 検討には、ARIB 規格（TR-B21）のパラメータを用いたため、もし ARIB 規格に準拠していないシステムが使われているのであれば、パラメータを教えてもらわないと、検討できない。
- 大堂GL 検討を要するシステムについて、構成員はパラメータを提出することとする。
- 吉野構成員 システム導入までに十分共用について検討しておかないと、いざ免許するとき共用が図れず、使い物にならないシステムとなってしまう懸念がある。
- 現在の条件では放送事業用の基地局と、公共ブロードバンドシステムの基地局の離隔距離は 2 km 以上と計算されているが、地方都市などでは離隔距離 2 km というのは公共ブロードバンドシステムの置局上大きな制限となることが想定される。

逆に、例えば警察署に公共ブロードバンドシステムの基地局がおかれたとき、放送事業用無線は警察署近辺での報道に支障が生じることが想定される。

吉野構成員 周波数帯を大きく見たときに、ガードバンドが数 MHz 幅必要であるという結論になると、周波数有効利用の観点から不適當。

放送事業用システムは狭帯域のシステムなので、ガードバンドが大きく出来てしまうのは説明がつかない。

全体の周波数有効利用の観点でも検討を要すると考えられる。

大堂 G L 周波数有効利用の観点での検討は、このアドホックグループだけでは結論は出せない問題である。

竹内構成員 もうひとつ、ガードバンドに関連して、検討しなければならない観点は、フィルタの実現可能性である。

あまりに急峻なマスクになると、フィルタが実現できなかつたり、実用的でないほど大きなものになってしまう懸念がある。

高田構成員 話は戻るが、やはり利用シーンが分からないと、技術的条件が適當なものなのかどうか判断が難しいのではないか。

大堂 G L 利用シーンを強く限定して技術的条件を策定してしまうと、逆に実際の利用シーンを限定してしまうおそれがあり難しいところである。

既存業務の免許人、公共ブロードバンドシステムの免許人双方にとって妥當なものになるよう調整していきたい。

村上構成員 今回のシーンを考えると、放送事業用の無線局にとって物理的に隣接した、シビアな環境にあると思われる。この認識についてどうか。

大堂 G L 隣接しないような利用も考えられる。シビアな環境だけを想定するのではなく、利用できるシーンを見落とさないようにしたい。

村上構成員 まずは 1-4 で想定されたモデルについて、放送事業用のユーザでまずは検証するということか。

事務局 アドホックグループ全体の流れを考慮したとき、まずは技術的なパラメータの妥當性について検証頂き、それによって計算される離隔距離などの結果について検討していくという流れが適當ではないかと提案するもの。

柴田構成員 離隔距離の前提として、そのパラメータが用いられているという認識で
(深澤構成員代理)

良いか。

吉野構成員 1-4 の 2 ページの受信レベルも離隔距離の前提か。

竹内構成員 そのとおり。

(3) その他

 次回の開催日時については、放送関係者からの情報提供を受けてから決定することとし、
 追って事務局を通じて連絡することとなった。